

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

小中一貫校 むくのき学園

大阪市立啓発小学校

大阪市立中島中学校

令和8（2026）年3月

小中一貫校 むくのき学園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、平成26年度に大阪府で2番目の全市募集による施設一体型小中一貫校として開校した。開校前の啓発小学校と中島中学校は、長年にわたり、きびしい学力状況と困難な生活指導を課題として抱える学校であった。しかしながら、地域と連携し、丁寧できめ細かい対応を日々続けることで、状況の改善を図り、児童生徒の心の拠り所となる「温かな学校」を学校文化として育ててきた。また、長年にわたり、多様な人権教育の取り組みを推進することで、高い人権意識と豊かな心の育成を図ってきた。

小中一貫校開校時は、大阪府教育振興基本計画に示されていた多岐にわたる教育改革施策を現場において研究・推進する「大阪府教育改革総合モデル校」の役割を期待される立場であった。その中で、小中学校の円滑な接続と、小中の教職員の協働、ICTを活用した教育活動、新しい英語教育、自校調理の中学校給食など新たな課題への対応に追われた。それぞれ違う環境の中で過ごしてきた小中学校の教職員が、小中共通の組織目標のもと、主体的・能動的に協働する姿が現在では自然となり、組織的に取組を推進できるようになった。

小中学校の全国学力・学習状況調査、大阪府中学生チャレンジテスト等での学力到達度を示す数値は、着実に向上はつづけているものの、まだまだ課題も多い。また、全市募集を行うなかで、不登校など様々な課題を抱える生徒の7年生編入、支援が必要な児童生徒の増加に伴う支援体制の維持など、新たな課題も出てきている。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校 85%、中学校 82%以上にする。 **【小：75.6% 中：75.5%】**

【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校 96%、中学校 95%以上にする。 **【小：92.7% 中：95.6%】**

【基本的な方向2：豊かな心の育成】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校、中学校ともに 77%以上にする。 **【小：80.5% 中：88.9%】**

【基本的な方向2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査において、平均正答率の対全国比を小学校国語・算数、中学校国語・数学のすべてで、1.00以上にする。

【小：国0.90 算0.86 中：国0.85 数0.64】

【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和7年度の大阪市英語力調査において、CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56%以上にする。【中：50.0%】

【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比を小学校男子・女子ともに1.00以上、中学校男子・女子ともに1.01以上にする

【小：男子0.92 女子0.98 中：男子1.05 女子0.88】

【基本的な方向5：健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕【5～1月 小：50.7% 中：50.3%】

【基本的な方向6：教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる令和7年度の教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を82%以上にする。【小：100% 中：80%】

【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

○令和7年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を79%以上にする。【小：80.4% 中：54.7%】

【基本的な方向8：生涯学習の支援】

○令和7年度末の保護者アンケートの「PTA活動や学校支援活動には、時間の都合がつけば、積極的に参加したいと思う」の項目について、令和3年度(小学校：45.8%、中学校：50%)より5ポイント増加させる。

【小：59.0% +13.2 中：59.6% +9.6】

【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

(小学校)

・令和7年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

・令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。

【基本的な方向2：豊かな心の育成】

・令和7年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。

【基本的な方向2：豊かな心の育成】

(中学校)

・令和7年度の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上にする。

【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

・令和7年度の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。

【基本的な方向2：豊かな心の育成】

・令和7年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を77%以上にする。

【基本的な方向2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

(小学校)

・令和7年度の小学校学力経年調査において、平均正答率の対市比を国語・算数ともに前年度より0.01ポイント以上向上させる。

【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】

・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比を男子・女子ともに前年度より0.01ポイント以上向上させる。

【基本的な方向5：健やかな体の育成】

(中学校)

・令和7年度の全国学力・学習状況調査において、平均正答率の対全国比を国語・数学ともに前年度より0.01ポイント以上向上させる。

【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】

・令和7年度の大阪市英語力調査において、CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を78%以上にする。

【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】

・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比を男子・女子ともに前年度より0.01ポイント以上向上させる。

【基本的な方向5：健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

【基本的な方向6：教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる令和7年度の教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。

【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・令和7年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を80%以上にする。

【基本的な方向8：生涯学習の支援】

- ・令和7年度末の保護者アンケートの「PTA 活動や学校支援活動には、時間の都合がつけば、積極的に参加したいと思う」の項目について、令和3年度（小学校：45.8%、中学校：50%）より5ポイント増加させる。

【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

【その他】

- ・小中一貫教育の強みを最大限に生かす中で、ちがいを認め合い個性や能力を伸ばす教育の推進を図り、全市募集による入学希望者数を含め、新1年生の複数学級を維持する。

【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度も、さまざまな人権教育に取り組み、高い人権意識をもつ豊かな心の涵養を図った。

【安全・安心な教育の推進】における学校の年度目標は概ね達成できた。一方で、中期目標においては、達成できなかった部分もある。生活指導面では、過去と比べると年々落ち着いて学校運営ができるようになった。ただし、市内の学校同様、不登校やいじめ等の課題がまだまだ散見されるため、すべての児童生徒が安全で安心して学校生活を送れるよう、さらなる取組を進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】における学校の年度目標については、①～③の取組内容の指標は達成できているが、年度目標数値は達成できていない状況である。また、中期目標においても、残念ながら概ね達成できなかった。学力面では、学習意欲の高揚に必要とされる学習習慣の定着などにおいて、依然厳しい環境の子どもたちも多数存在することが一つの要因としてあげられる。しかしながら、公教育として誰一人見捨てることなく、一人一人が希望する進路選択や進路実現をめざした学力の向上に努めていく。また、体力面では、男女問わず、体を動かす機会の創出や運動による身体発達や健康増進に向けた日々の取組を引き続き推進していく。

【学びを支える教育環境の充実】における学校の年度目標および中期目標は概ね達成できた。中学生の読書に関する項目は、学習者用端末など社会の電子化の流れの中で、活字離れが進んでいると思われる。教科書においても、デジタルと紙の併用をいかに進めるべきかの議論もある中で、子どもたちにとって有益な学習環境の整備を今後も図っていく。

今後も教職員のワークライフバランスと、子どもたちのウェルビーイングを向上させるような取組を推進していく。

小中一貫校むくのき学園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 (小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。【80.7%】 令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。【89.5%】 令和7年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。【75.3%】 <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上にする。【83.8%】 令和7年度の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。【97.4%】 令和7年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を77%以上にする。【86.3%】 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>なかまについて考える取組を企画し、他の人の立場に立ち物事を考えることのできる集団を育成する。また、職員アンケートなどを通して、児童生徒との関わりのなかで有用であると感じられる取組の情報共有を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>学校診断アンケートの「人を傷つけるような言葉や行動を許さない学年になっていると思う。(小学校)」の項目において、肯定的回答の割合を80%以上にする。 「学校は、いじめや暴力行為を許さない安心できる場所になっている。(中学校)」の項目において、肯定的回答の割合を83%以上にする。【小:81.7% 中:80.3%】</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>自律的な生活習慣や規範意識を育成し、集団生活を通じて社会連帯の基礎を養う。特に、むくのき学園の決まりを年度当初に確認し、教室掲示など、児童会・生徒会を中心に決まりの徹底を図る。</p>	B

<p>指標 むくのき学園のきまりをもとに指導のあり方を共有しながら、さまざまな場面での児童生徒の規範意識を高め、「むくのき学園の決まりを守っている。(小中学校)」の項目において、肯定的回答の割合を小学校 90%、中学校 95%以上にする。 【小：90.6% 中：92.3%】</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 2：豊かな心の育成】 小中一貫校として 9 年間を見通した系統的な人権教育を推進し、豊かな人権感覚を育てる。</p>	
<p>指標 人権教育推進にかかわる年間方針、人権教育確認事項をもとに、学校生活全般において人権を意識した教育を行い、人権課題に関わる取組を年間計画にそって各学年で取り組む。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向 2：豊かな心の育成】 一人一人に役割を与えて活躍の場をつくり、達成感・充実感を味わうことで、自己有用感・自尊感情を育む。また、職員アンケートなどを通して、児童生徒との関わりのなかで有用であると感じられる取組の情報共有を図る。</p>	A
<p>指標 学校診断アンケートの「自分にはよいところ（得意なこと）がある。」の項目について、肯定的回答の割合を小学校 85%中学校 80%以上にする。 【小：88.8% 中：86.3%】</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 1：安全安心な教育環境の実現】 児童生徒がものを大切に扱うことができるように、清掃用具の管理や取り扱いについて共通認識を図る取組をおこなう。</p>	
<p>指標 学校診断アンケートの「責任をもって係や当番活動をしたり、みんなと協力して清掃活動に取り組んだりしている（小学校）」、「学校のものを大切に扱い、自分の役割に責任を持ち、みんなと協力をして清掃活動に取り組んでいる（中学校）」の項目について、肯定的な回答の割合を 90%以上にする。 【小：95.5% 中：95.7%】</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】 1・2 学期ともに「grow up むくのき」を実施した。児童生徒がそれぞれの学級目標に向かって主体的に行動したり、自己や他者とのちがいについて考えたりする機会となった。小学校では、月 2 回程度、縦割り班での集会を実施した。中学校では、「むくのきスマホルールを考えよう」を実施し、児童生徒が主体となって話し合う機会があった。新しくむくのきスマホルール 5 か条を作成し、SNS によるいじめについて事例をふまえて考えることができた。 学校診断アンケートの「人を傷つけるような言葉や行動を許さない学年になっていると思う。(小学校)」 「学校は、いじめや暴力行為を許さない安心できる場所になっている。(中学校)」の項目では、肯定的回答の割合が（小学校）81.7%、（中学校）80.3%となり、小学</p>	

校は目標を達成したが、中学校は目標を達成できなかった。

【取組内容②】

小学校では、情報委員が規範意識を高めるポスターを作成し、全児童の規範意識を高めることができた。中学校では、風紀委員が中心となって服装チェックを行った。生徒主体で行うことにより、生徒自身の規範意識が高まってきた。

学校診断アンケートの「むくのき学園の決まりを守っている。」の項目では、肯定的回答の割合が（小学校）90.6%、（中学校）92.3%となり、小学校は目標を達成したが、中学校は目標を達成できなかった。

【取組内容③】

人権課題に関わる取組を年間計画に基づいて各学年、小学校も中学校も概ね計画的に進めることができた。また、小学校において、東淀川支援学校との交流を全学年にわたって実践することができた。どきどき四者発表会では、人権教育を軸とした取組を経て舞台発表につなげることができた。しかし、小中ともに人を傷つける言葉や差別事象などがあり、人権教育実践が子どもたちに行き届いていない部分が見受けられた。

【取組内容④】

小学校では委員会活動、中学校では各種委員会、係活動などで、一人一人に役割を与えて活躍の場をつくることができた。学校診断アンケートの「自分にはよいところがある。」の項目において、肯定的回答の割合が（小学校）88.8%、（中学校）86.3%と、小中学校ともに目標を達成することができた。

【取組内容⑤】

学校診断アンケートで「責任をもって係や当番活動をしたり、みんなと協力して清掃活動に取り組んだりしている（小学校）」「学校のを大切に扱い、自分の役割に責任を持ち、みんなと協力をして清掃活動に取り組んでいる（中学校）」という項目についての肯定的回答率が95.6%（小95.5%、中95.7%）であり、年度目標の肯定的な回答の割合90%以上を達成した。また、清掃用具の扱いや清掃の仕方について動画を作成した。

次年度への改善点

【取組内容①】

学校として、いじめを許さないという姿勢を持つことにより、早期発見・解決に努める。近年では、ネットによるいじめが増えてきていることから情報モラル教育を引き続き進めていく。

【取組内容②】

様々な行事で、規範意識を高めるために、児童生徒が主体となって学校を良くしていく活動を行っていきたい。また、今後も「むくのきのきまり」の内容を発信していき、協力してもらえる家庭を増やしていく。

【取組内容③】

小学校、中学校ともに単発的な人権教育実践になるのではなく、系統立てた実践を意識した計画を立て取り組んでいく。

【取組内容④】

今年度は、どちらも達成することができた。目標の数値を上げていけるように様々な行事を通して、子どもたちが主体となって取り組めるような場を設定し、自尊感情を高めていく。

【取組内容⑤】

清掃用具の扱いや清掃の仕方について啓発した結果、用具を正しく使い、清掃をしている姿が多くみられるようになった。また清掃チェックを行うことで、清掃活動への意欲向上につながった。しかし清掃活動に対して真剣に取り組む姿が見られるようにはなってきたものの、継続して取り組んでいる児童生徒は少ないように感じる。今後、清掃活動の啓発や清掃チェックなどを定期的に行い、真剣に清掃に取り組む姿勢を継続させられるようにしていく。

(様式2)

小中一貫校むくのき学園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 (小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査において、平均正答率の対市比を国語・算数ともに前年度より0.01ポイント以上向上させる。 【国-0.07 算-0.08】 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比を男子・女子ともに前年度より0.01ポイント以上向上させる。 【男子-0.02 女子+0.01】 <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の全国学力・学習状況調査において、平均正答率の対全国比を国語・数学ともに前年度より0.01ポイント以上向上させる。 【国語-0.05 数学-0.14】 令和7年度の大阪市英語力調査において、CEFR A1 レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を78%以上にする。 【50.0%】 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比を男子・女子ともに前年度より0.01ポイント以上向上させる。 【男子+0.07 女子+0.07】 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の増加】 児童生徒一人一人が個々の目標に主体的に取り組む環境を作る。</p> <hr/> <p>指標 算数・数学科プリント・デジタルドリルに取り組む。 年間目標 小学校(低学年)…80回、(中学年)…80回、(高学年)…80回 中学校…100回</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の増加】 授業における能動的な活動の充実を図り、児童生徒が発達段階に応じた形で、グループディスカッション・ディベート・グループワーク等、協働して課題の発見・解決ができる場を設定するなど、主体的・協働的に学習に取り組めるようにする。</p> <hr/> <p>指標 学校診断アンケートにおいて、「自分の考えをペアやグループ活動で説明したり話し合ったりしている(小学校)」、「授業では自分の考えを発表する機会がよく与えられている(中学校)」、「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っている(中学校)」の項目について、肯定的な回答を80%以上にする。 【小:87.1% 中:94.0 中:92.3%】</p>	A

<p>取組内容③【基本的な方向5：健やかな体の育成】 (小学校)児童が意欲的に運動に取り組めるよう、運動する機会を増やす。 (中学校)基本的な生活習慣を定着させる取組を行い、健やかな体の育成を図る。</p>	
<p>指標 (小学校)学校診断アンケートにおいて「クラブ活動や体育の授業、休み時間など、運動することは楽しい」の項目について、肯定的回答率を90%以上にできるよう運動への意欲を高める取組を実施する。 (中学校)学校診断アンケートにおいて「朝食を毎日食べている」の項目について、肯定的回答率を80%以上にできるよう、基本的な生活習慣の確立をめざした取組を実施する。 【小：92.4% 中：87.2%】</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】 すべての学年で計算プリント・デジタルドリルの目標枚数・回数を達成できた。</p> <p>【取組内容②】 すべての学年において、授業でグループワークやグループディスカッションを取り入れることができている。また、学校診断アンケートにおいて、「自分の考えをペアやグループ活動で説明したり話し合ったりしている（小学校）」、「授業では自分の考えを発表する機会がよく与えられている（中学校）」の項目において、肯定的な回答がそれぞれ87.1%、94.0%という結果となり、「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っている（中学校）」の項目においては92.3%という結果となり、目標を達成できた。</p> <p>【取組内容③】 (小学校)学校診断アンケートにおいて「クラブ活動や体育の授業、休み時間など、運動することは楽しい」の肯定的回答率は92.4%で目標を上回った。耐寒かけ足を各学年で引き続き取り組むことにより、体力の向上につなげることができた。また、運動委員会を中心に、運動する機会を増やすための計画を立て、取り組みを実施した。 (中学校)学校診断アンケートにおいて「朝食を毎日食べている」の肯定的回答は87.2%で目標を上回った。保健だよりや掲示物等を活用し、保健委員会を中心に朝食をはじめとして生活リズムを整えることの大切さについて伝えていくことができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【取組内容①】 全学年、目標回数に到達できた。今年度も、tomolinksを使用したデジタルドリルを取り入れた。来年度、tomolinksが使用出来るか分からないため、プリント使用にもどすか、別のドリルを考える必要がある。</p> <p>【取組内容②】 小・中ともにどの項目においても、昨年度より肯定的な回答を得ることができた。来年度も、グループワークやグループディスカッションを通して、より協働して課題の発見・解決が出来る取り組みをしていく。</p>	

【取組内容③】

(小学校) 運動委員会において、運動場で他学年がふれあい体力向上も行えるように今年度行ったような、みんなが体を動かして楽しめる内容を実施していく。

(中学校) 昨年度より3%アップし目標は達成したが、まだ朝食を食べている割合が低いと感じる。朝食を食べる割合を増やすために原因を追究し、正しい生活習慣を身につけること、朝食を食べることの大切さを、委員会活動や掲示物・保健だより等を活用し伝えていく。

小中一貫校むくのき学園 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度の授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 【5~1月 小: 50.7% 中: 50.3%】 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる令和 7 年度の教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 90% 以上にする。 【小: 100% 中: 80%】 令和 7 年度末の校内調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80% 以上にする。 【小: 80.4% 中: 54.7%】 令和 7 年度末の保護者アンケートの「PTA 活動や学校支援活動には、時間の都合がつけば、積極的に参加したいと思う」の項目について、令和 3 年度 (小学校: 45.8%、中学校: 50%) より 5 ポイント増加させる。 【小: 59.0% +13.2 中: 59.6% +9.6】 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 : 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ICT 機器の利活用推進の為、教職員、児童、生徒が負担なく使用できるように環境を整備する。</p> <hr/> <p>指標 「学習者用端末活用率表」における、児童生徒の学習者用端末 (クロームブック) の月別活用率を小中ともに 75% 以上を維持にする。 【小: 80.1% 中: 77.9%】</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向 8 : 生涯学習の支援】 学校図書館や学級文庫に児童生徒の興味のある書籍を充実させ、児童生徒に読書習慣を身につけさせる。</p> <hr/> <p>指標 ・図書館司書と協力して、月に 1 度程度、児童生徒の学年に応じた推薦図書を紹介する。 ・学校図書館、巡回図書、学級文庫等を活用して、小学校では読書の時間を週 1 回、中学生では朝読書の時間を週 3 回程度設け、読書する習慣を身につけさせる。 ・中学校: 学校診断アンケートの、「ふだんから家や教室で読書をしている」40.6%、「教室や図書室の本を利用している」31.4%の項目について (数字は令和 6 年度の肯定的回答率) それぞれ 2 ポイント増加させる。 【35.9% -4.7, 31.6% +0.2】 ・小学校: 学校診断アンケートの、「ふだんから家や教室で読書をしている」、「教室や図書室の本を利用している」の項目についての肯定的回答をそれぞれ 50% 程度、70% 程度とする。 【63.8%, 76.3%】</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 各月の行事予定に「ゆとりの日」を毎週木曜日に記載し、職員朝礼においてもア ナウンスし、時間外勤務時間の減少を促進する。</p>	B
<p>指標 毎月の「教員の一人当たり平均時間外勤務時間」の本校の平均時間（累計）が、小中 ともに昨年度状況を下回る。 【小：-6時間 中：+2時間】</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】月別活用率の平均は小学校 80.1%、中学校は 77.9%で目標を達成した。 【取組内容②】中学校：学校診断アンケートはそれぞれ 35.9%、31.6%で目標達成とはな らなかつた。小学校：学校診断アンケートはそれぞれ 63.8%、76.3%で目標を達成した。 【取組内容③】4月～1月の長時間勤務 80 時間超えの教職員は中学校 2 名であった。新転 任教員であり、4・5月のみであり、その後は解消された。また、本校の平均時間外勤務時 間は、小学校は平均約 6 時間減少し、中学校は、平均 2 時間増加した。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【取組内容①】小学校においては、年間を通して「心の天気」や「navima」などの学習 コ ンテンツを児童が日常的に使用することができた。昨年度の数値（76.1%）も超えており順 調であった。一方で、児童の 80%以上 が学習者用端末を活用した日数は 50.4%に留まっ た。環境整備をさらにすすめ、80%以上 が学習者用端末を活用した日数を増やすことを目 指していく。中学校においては、9 月末時点では 67.4%であったが、「tomoLinks」のドリ ルの徹底、授業での使用を声かけするなどして、後期の使用率があがり目標を達成するこ とができた。来年度はさらなる環境整備をすすめ、前期から使用率をあげることができよう 取り組んでいく。</p> <p>【取組内容②】中学校の図書室利用と読書の定着を目標に掲げていたが、達成することがで きなかつた。次年度へ向けては、文化委員による巡回図書の選定を中学生向けの図書に限定 するなど、本に興味を持てる環境を作れるよう取り組んでいく。また、各教科で図書室で過 ごす時間を設定するなどして、図書室を利用する機会を設けていく。</p> <p>【取組内容③】小中ともに、教職員のワークライフバランスの意識は浸透してきている。 新転任や若手教職員が業務に時間がかかったり、役職や部活動を担う教職員に負担がかか ったりするため、チームとして取り組む、業務内容を精選するなど、学校全体として時間外 勤務時間の短縮にむけて取り組む。</p>	

小中一貫校むくのき学園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 ○小中一貫教育の強みを最大限に生かす中で、ちがいを認め合い個性や能力を伸ばす教育の推進を図り、全市募集による入学希望者数を含め、新1年生の複数学級を維持する。 【2学級の予定】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】 【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 小学校からの一貫性を生かした学びに連続性をもたせ、効果的な小中協働授業を行う。	A
指標 ・入り込みなどを通して小中学校教員で小中協働授業をおこない、学校診断アンケートの小中一貫した教育に関する質問での肯定的回答率を80%以上にする。 ・1年に1回程度、小中同じ教科・領域の教員で情報交換・情報共有を行う。 ・相互授業参観を設定し、小中の教員がそれぞれ1回以上参観する。 【小：94.3% 中：98.2%】	
取組内容②【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 区役所・地域・各支援機関との連携や、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーとの連携を円滑に行うことで、各家庭と信頼関係を構築する。ミマモルメを効率的に利用し、情報発信・情報提供を行う。	B
指標 保護者による学校診断アンケートにおいて、小中ともに「先生たちは子どもや保護者が困ったときに相談にのり、対応している」「子どもたちの健全な育成には、学校・保護者・地域の連携がとても大切である」のそれぞれの項目において、いずれも95%以上にする。 【小：92.6% 中：87.7%】 【小：98.4% 中：98.2%】	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容①】 小・中学校への入り込み授業が順調に行われた。また、相互授業参観週間が11～12月にかけてに約5週間実施された。また、「小中一貫校で小学校5・6年生が中学校教員の専門的な知識を生かした授業を受けられるのは良いことだ。」「小中一貫校で異学年交流を行うことは良いことである。」という項目の肯定的回答は、それぞれ94.3%、98.2%という結果で、目標を達成する結果となった。	

【取組内容②】

保護者による学校診断アンケートにおいて、指標の項目の肯定的回答は、それぞれ「相談」小 92.6%、中 87.7%、「連携」小 98.4%、中 98.2%となり、「連携」は目標を達成した。「相談」の項目は目標は達成できなかったものの、小学校においては昨年度 93.7%と同程度、中学校においては昨年度 79.6%に比べると大きく上回った。

次年度への改善点

【取組内容①】

今年度、小中同じ教科・領域の情報交換・情報共有が実施できなかったため、次年度への課題となっている。毎年行うことが難しいため、今後は3～4年に1度程度で実施することを検討している。また、相互授業参観週間については、前年度は期間が短いとの意見を基に延長を試みたが、参加率にあまり変化はなかった。次年度は、学期毎に相互授業参観の期間を設けるなどして、授業参観へのさらなる積極的な参加を促進する。

【取組内容②】

日々、学習者用端末の「心の天気」や「相談申告機能」を活用して子どもたちの心情を図り、毎月のいじめアンケート等で掴んだ内容について、教職員は外部機関とも連携しながら、チームとして早期解決に向けた取組に努めている。ミマモルメを利用して保護者と情報交換する場面も増えてきており、さらなる連携を進めていく。